

電波観測の成果披露

「宇宙との出会い」演出

国立天文台が講演会

国立天文台は10月7日、公開講演会『最新の天文学にふれよう』をつくばエキ



スポセンター（茨城県つくば市）で開催した。電波観測で解明されてきた太陽やブラックホールなど、最新の宇宙の姿を2人

今後の予定などを語った。写真。太陽で爆発が起こるとフレアが放出され、磁気嵐が地球に電波障害など様々な影響を及ぼすことか

の研究者が解説。質問コーナーでは、多くの参加者が積極的に発言した。前半は、野辺

山太陽電波観測所の柴崎清登所長が、先日打ち上げに成功した太陽観測衛星『SO LARIB』の特徴や役割、

後半には、筑波大学の中井直正教授が、光速では地球から月までは1・3秒しかかからないことなく、宇

宙での距離感をわかりやすく話した。さらに、最新の研究を踏まえたブラックホールの成り立ちや性質、一定の径内に入らないとブラックホールに物質は吸い込まれないことなどを電波望

遠鏡で撮影した画像とともに解説した。市内の女の子（小6）は、「宇宙が好きで、星のことをもっと知りたくて、友達と話を聴きにきた」と話した。将来は望遠鏡に携わる活動する太陽や銀河の姿に見入っていた。また、柏市の男子中学生は、講演中熱心にノートにメモを取り見送ったという。宇宙と出

「小学6年生の時に望遠鏡を買ってもらい、宇宙に関心を持った。講演ではブラックホールや宇宙天気予報など初会う萌芽は、その時にもうあったのだろうか。科学は、多くの人と出会う場所を捉えなければならない。